



◆コロナ関係

1日の新規感染者数は兵庫県で20人程度、全国で200人前後と劇的に減りました。ワクチン接種率は80%を超えそうです。当初は、先進国の後塵を押し政府に対して非難ごうごうでしたが、粘り強くワクチン接種をすすめていったことと、日本人の几帳面さのおかげで、接種率は世界のトップ集団に立ち、感染者数の少なさは奇跡的であると世界が注目するようになりました。

それでもまだ散発しており、油断はできません。3回目ワクチン接種の予定がほぼ決まったようで、年内はコロナ受け入れ病院の医療従事者から始め、その後順次、他の医療従事者、そして高齢者への接種へと広めていくようです。

◆インフルエンザ

今週から職員むけのワクチン接種を開始します。入荷数が昨年の7掛けで少なくなっている関係で、患者さんへの接種は近隣の開業医にお任せするようにしました。厚生労働省が11月5日に発表した「インフルエンザの発生状況」によりますと、43週(2021年10月25日～10月31日)のインフルエンザの指定医療機関の報告数は「20」でした。昨年同時期の総数「30」と同様に、極端に少なくなっています。なお一昨年の同時期の総数は「3,953」でした。



経験は最良の教師なり
ただし月謝がひどく高い
トーマス・カーライル

失敗、挫折、苦悩が人を育て、打たれ強くなるとカーライルは述べています。知識だけでは物事は解決しません。知識を智慧にするためには、経験が必要です。



神戸で一番
親切で
安全で



◆今週の院長予定 最高の医療を！

11月8日	月	8:00運営会議、15:00来客、17:30医局会			
11月9日	火	9:00外来、14:00手術、17:30業務改善委員会			
11月10日	水	松江			
11月11日	木	9:00～12:00来客、16:15神戸校運営会議			
11月12日	金	9:00外来、14:00手術、19:00ズームセミナー			
11月13日	土	9:45新須磨クリニック、13:00外来			

◆私の本棚

がんになった緩和ケア医が語る「残り2年」の生き方、考え方 関本剛 宝島社

著者は、神戸にある在宅緩和ケアの草分け的な存在の関本クリニックの院長。ご自身に、手術不可で脳転移のある肺がんが見つかり、余命2年と診断されてから書かれた本です。癌と診断されたときの苦悩、家族の悲しみ、そしてご自身の家族への思いをつづりながら、緩和ケア医として今も臨床現場に立ち向かう様子が描かれています。

自分が癌にかかることで、初めて知った患者の言葉に出せない苦しみなども書いておられます。本当に患者に寄り添うとはこうことだということがよく分かりました。おススメの本です。



慈恵会グループの紹介⑥
学校法人澤田学園
松江総合医療専門学校

平成10年に松江市から誘致を受けて、開校したいわゆる「誘致企業」です。まる23年が経ちました。介護福祉士科、視能訓練士科で開学、その後の変遷を経て、現在は看護学科、理学療法士科、作業療法科の3学科で運営しています。

平成24年11月に前理事長の跡を継いで、私が理事長に就任し、8年前の2月から毎週水曜日に松江に行っています。ざっと450回くらいは通ったこととなります。島根、鳥取はもともと人口の少ない県であり、少子化とあいまって、厳しい学校経営を余儀なくされてきましたが、教職員の協力を得て、「入りを図りて出るを制する」ことに努め、何とか単年度の黒字化を達成できるようになりました。

- ①松江市の発展に寄与すること
- ②松江市を中心に、島根・鳥取の山陰地方に優れた医療者を送り出すこと
- ③若い人の定住化の一役を担うこと
- ④地方創生の一役を担うこと

以上が誘致校である本校の使命と考えています。